社員食堂〝うまく〟進化

東大阪の中小

メニューや空間一新

大阪府東大阪市の中小企業の社員食堂やランチがなかなかすごい。新社屋の建設や改装を機に「進化」したケースが目立ち、そのあり方は各社各様。社員の福利厚生をどう体現しているのか探った。（東大阪・村田光矢）

紙と化成品（フィルム）のパッケージ、包装紙などを企画、製造、販売する三和紙業。本社に4月、オープンイノベーション施設「TSUNAGI」を開設して以来、松田加奈社長が自ら調理し社員に振る舞う「社長ランチ」を週に2、3回程度開く。同社の渡部ゆずるさんは「いいにおいがするので楽しみ」と毎回、心待ちにする。

同施設の大きなキッチンで11時30分ごろに調理を開始。「ご飯できたよー」のかけ声で社員が集まり、一緒に食べる。メニューはソーセージと野菜のポン酢炒め、豆腐ハンバーグ、冷しゃぶサラダ、冷製創作そばなど多彩で、松田社長が居酒屋で見つけた一品がさりげなくメニューに加わることも。コメは土鍋で炊いている。

最初は社長の手際よい調理を驚いて見ていただけの社員から、コメを炊く、卵をゆでるなどの「助手」を担う者も現れてきた。松田社長は社長ランチが「社員がコミュニケーションを取るいい機会になっている」と話す。

バルブボールやバルブ周辺部品を手がける木田バルブ・ボールの新本社ビルの社員食堂は、喫茶店やバーかと思うようなスタイリッシュな空間が特徴だ。「社員がゆったりとくつろいで、落ち着く空間にしたかった」と木田浩史社長は説明する。

三和紙業の「社長ランチ」の一コマ（左の手前から2人目が松田社長）

満足度高め くつろげる場に

「サードプレイス」（家や職場以外の第三の居場所）の提唱で知られる大手コーヒーチェーンの店舗を参考に、木田社長が自ら天井や壁紙、建材、家具、照明などあらゆるものを徹底的に調査し、木と黒とグレーを基調とした居心地の良い空間をコーディネートした。食堂にはコーヒーやコンソメスープなどを自由に飲めるフリードリンクも備え、社員は弁当や総菜を持ち込んで食事する。

新本社ビルが2024年に完成する前の食堂も知る同社の田井颯希（さつき）さんは「照明が暖色系で、リラックスしながら昼の休憩時間を過ごせる」と満足そう。木田社長は「社員ファーストで考えた空間」を飲食や会議などで有効に使ってもらいたいと願う。

特殊鋼ボルト・ナットが主力のメーカー、竹中製作所の本社の社員食堂は天井や壁、照明を白基調で統一した落ち着いた内装だ。昼休み、社員は厨房（ちゅうぼう）の手前で順番に並んで白身魚の甘酢あん、ホイコーローなど日替わりの2種類のメーンのおかずから一つを選び、併せて二つの小鉢やご飯、みそ汁も自分のトレーに載せていく。

以前は昼休み前に配達される弁当で、ご飯だけ温かい状態で提供していた。「社員に温かいものをしっかり食べてもらいたい」という竹中佐江子社長の思いから、22年の社員食堂の改装を機に厨房を大幅に拡充した。委託給食会社から届いたおかずやご飯、厨房で調理するみそ汁の全てが温かくなった。

ボリューム満点の昼食は会社が半額近く補助し、1回当たりの個人負担は350円で済む。同社が行った社内アンケートでは「味、量ともに満足」などおおむね好評。同社の佐藤功さんは「食事の質はかなり上がった」と実感を込めていた。

合成樹脂の異形押出成形を手がけるカツロンの本社の社員食堂は3階にある。清潔感あふれる明るい内装で、観葉植物が置かれ、窓から生駒山の雄大な景色を楽しむことができる。

19年に旧本社を含む2工場を現本社に移転、統合して以来、隣の大阪府八尾市の人気弁当店から毎日、日替わり弁当を配達してもらっている。例えばエビフライとハンバーグをメーンディッシュに、デミグラスソースのかかったキノコやパプリカなどが添えられ、ご飯は大盛り、おかわり自由。昆布やちりめん、はりはり漬けもご飯の上に盛れ、みそ汁やスポーツ飲料なども飲める。

代金はすべて会社持ち。社員はこれらをすべて無料で飲食できる。石川明一社長は「福利厚生の一環で、父（前社長）の代から弁当代を会社で出している」と語る。社員からは「弁当を持参しなくて済むのでありがたい（駒居麻里奈さん）、「昼食が楽しみ」（上神優斗さん）などの声が上がる。石川社長は「食事は健康を支える」と福利厚生の中で昼食は重要と位置付ける。

上 木田バルブ・ボールの社員食堂は喫茶店やバーかと思うようなスタイリッシュさが特徴
下 竹中製作所の社員食堂は改装を機に厨房（中央奥）を拡充。温かいものをしっかり食べられる

カツロンの社員食堂ではご飯を大盛りにしたり、おかわりしたりする社員が多い

社長が調理／シックな内装／温かく提供／全額会社負担

さあ！出番 IT'S YOUR TURN

埼玉縣信用金庫理事長 井上 義夫（いのうえ よしお）氏

地域特性に合わせ支援

支店での営業時代に大切にしていたのは、誠実に向き合う姿勢。その心構えは「顧客との関わりの中で学んだ」と感謝する。

埼玉縣信用金庫の特徴とも言える「エリア制」は、埼玉県を東西南北の4エリアに分け、それぞれの地域特性に合わせた効果的な本業支援を実施。中小企業の悩みが複雑・多様化する中、地域に根ざした支援の重要性が高まっている。「地域の声をくみ取り柔軟に対応することが必要。職員一人ひとりが誠実な対応を心がけている」と力を込める。

2025年度は中期経営計画の最終年度。地域密着を土台にデジタル活用を進め、業務効率化を進める。生まれた時間や人員を営業に振り向ける体制づくりを目指す。

家庭菜園で気分転換。塩ゆでしたオクラが美味。（さいたま）

86年（昭61）国学院大経済卒、同年埼玉縣信用金庫入庫。17年理事、20年常務理事、22年専務理事。埼玉県出身、62歳。6月19日就任。（埼玉県熊谷市久下4の141）

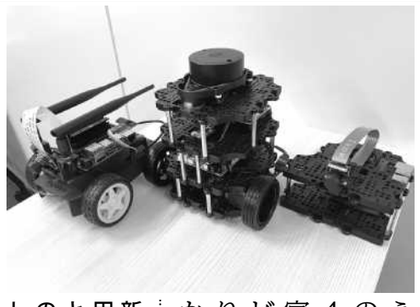
宇都宮に新オフィス

ファソテック、関東の顧客開拓

【千葉】ファソテック（千葉市美浜区、椿進一社長）は、企業の認知度向上や人材確保を目的として、宇都宮市に新オフィスを開設した。駅から近い立地を活用し、製造業を主な対象に新規顧客へのアプローチを強化するほか、エンジニア育成の基盤となる環境づくりに取り組む。

新オフィスでは、AI（人工知能）、公差解析、生産技術、3次元（3D）CADに関する技術研修、ソフトウエア定義車両（SDV）のエンジニアリングサービス、営業活動などの業務を扱う。派遣社員も含めて15人程度の従業員が所属し、今後順次増員する予定だ。

ファソテックはこれまで栃木県内には宇都宮エンジニアリングセンター、高根沢オフィス、芳賀オフィスを構えており、今回の新オフィスは4拠点目。宇都宮駅に近接するビルの4階にあり、利便性を生かしてさらなる認知度向上と人材確保を目指す。同社の望月貴之取締役兼VD技術本部本部長は「事業拠点への積極的な投資を通じ、価値ある企業として成長を続けたい」と意気込む。今後は既存顧客との業務拡張を継続するほか、埼玉や東京など関東圏を中心に拠点拡充を検討しており、協力会社を含め広域での連携体制を構築していく。



新オフィスで使用する自動運転とAI応用研修の自律用ロボット

山林活用へ専門家連携

農水振興機構 福島・石川町で支援開始

【福島】農林水産振興機構（AFFA、福島県郡山市、平山貴浩代表理事）は、福島県内で個人などが所有する山林について、登記・相続から活用までさまざまな専門家が連携・支援するワンストップサービスに乗り出す。「山林まるごと安心サービス」と名付け、試験運用を同県南部の石川町の山主限定で20日に始める。相談は無料。

農林水産振興機構は2024年6月に日本遮蔽技研（福島県本宮市）が中心となって設立。食料自給率の向上、漁業資源の循環・有効活用とともに、福島原発事故後に手付かずとなって荒廃した福島県内の森林の再生・保全およびバイオマスエネルギーなどへの利活用による地方創生を目的に掲げる。

特に24年4月から義務付けられた山林の相続登記や、相続した山林の扱いに困っている山主が多いことから、豊富な山林が広がる石川町を手始めに県内でサービスを広げることにした。

7月末時点の団体の正会員は測量や林業、電気設備・農業、地質調査、農業資材など10社。専門家パートナーには弁護士、税理士、司法書士、行政書士のほか、適切な森林管理などを通して温暖化ガスの排出量削減をクレジットとして国が認証する「J－クレジット」の創出支援企業なども参画する。これら専門家が連携して、山林の課題解決の支援と利活用を提案する。

産機工・近畿経産局が勉強会

関西発水素・アンモニア社会実現

日本産業機械工業会と近畿経済産業局は26日14時からグランキューブ大阪（大阪市北区）で、関西発の水素・アンモニア社会実現のための勉強会を開く。

会員企業や関心のある民間企業、自治体、金融機関、大学・研究機関などが対象。「大阪泉北地域に向けたクリーン水素・クリーンアンモニアサプライチェーン（供給網）の構築」についてIHIや関西電力、三井化学などが、「水素ステーション向けOリングの開発とこれからの展望」について高石工業が講演する。問い合わせは産機工関西支部（06・6363・2080）、または近畿経産局資源エネルギー環境部カーボンニュートラル推進室（06・6966・6055）へ。

情報フラッシュ

◆本店ビル改築

岐阜信用金庫（岐阜市）本店ビルを改築する。10月末に本店ビルでの営業を終え、近隣の仮店舗に移転して11月4日から営業する。新本店ビルの詳細や完成時期は未定。本店ビルの改築では、岐阜市のまちづくり構想と調和を図り、にぎわいに貢献する方針。

気づきを、動きへ。
AC JAPAN
公益社団法人 ACジャパンは全国の1,000を超す民間の企業と団体がひとつになって、広告を通して社会にメッセージを送り続ける非営利組織です。
公益社団法人 ACジャパン 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-7-1 霞が関ビジネスセンター
◆ACジャパンの広告についてのご意見・ご要望はホームページへ。 https://www.ad-c.or.jp